

西小だより

【学校教育目標】
一夢がわき 心もはずむ 西小の子ー
・素直で心豊かな子
・進んでくり返し学習する子
・ねばり強くたくましい子

学校 Web サイト URL <http://nishiurawa-e.saitama-city.ed.jp/>

～ よく学び 笑顔いっぱい 一人ひとりが輝く教育の推進 ～

学校、家庭、地域で子どもたちに「促す」

校長 竹谷 浩一

私は、スマートフォンを自宅に忘れてしまって外出先ですごく困ったことがあります。

忘れ物が多い子どもがいたとします。月曜日の朝、子どもが登校した後の玄関先(別の場所の可能性も)に上履きが置かれたままになっていました。そんな時、私たち大人は・・・

「どうしてあなたはいつも忘れるの!!」とつい叱ってしまいます。そのうち「何回言ったら分かるの?」「○○(兄弟姉妹等)は忘れたことなんてないよ!」と他者と比較したり、「そんなにだらしのない子は、もう知りません!」と呪いをかけてみたり、「今度忘れたら□□は無しだからね!」と罰を与えてみたり……。しかし、そうしたアプローチで忘れ物をしなくなったという話はあまり聞いたことがありません。

忘れ物をした子どもは「どうして」と言われても、忘れたから忘れたのであって、理由なんて答えられません。この「どうして」とか「なんで」という問いかけは、過去の原因を追及する言葉、つまりマイナスの言葉かけであり、言われた側は理詰めされ、否定され、挙句の果てには言い訳を考える以外に手立てが見つからなくなります。

こうした場合、「どうして」を「どうすれば」に変えることが最適解だと思います。「どうしてあなたはいつも忘れるの!」の代わりに、「どうすれば忘れ物をしなくなる?」と問いかけ、子どもにその解決策を自己決定させてみてはどうでしょう。

「どうすれば」というのは、未来に向かって解決を促す質問です。すると、頭の中で「どうすればいいかな・・・」と考えるようになります。こんな場面こそ思考力を育てるチャンスです。具体的な方法を考えられるように促し、自分で決められたら(判断力)、それを言葉にする(表現力)。そして、自分で工夫して決めたことはやる(主体性、実行力)。こうした試行錯誤が自力解決への歩みになると思います。

子どもに解決策を考えさせるには、私たち周囲の大人がすぐに責めたり叱ったりせず、見守る忍耐力も必要です。こうしたアプローチをするのとしないのとでは、必ず大きな差になると思います。いつか試してみてください。

スマートフォンを忘れて困った私は、上履きを玄関先に忘れた小学生(実は私のことです)の頃を思い出し、どうすれば忘れないかと自問自答してみました。そしていつも出掛ける際に持ち歩くバッグをリビングのコンセント近くに置くようにして、そこで充電器を使用することにしました。それ以来、スマートフォンを忘れることはほぼなくなりました。

校長のつぶやき

ようやく暑さもひと段落ですね。9月は一時、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症がプチ流行し、5学級で学級閉鎖を実施しました。学年で運動会練習が始まるタイミングだったので、教職員の間でも不安の音が広がりました。シルバーウィーク(天気には恵まれませんでした)も終わり、あと10日ほどで運動会です。昨年の運動会は朝から雨が降ったり止んだり、実施可否の判断にとて苦悩しました。(今年はもう勘弁してほしいです)雨交じりの肌寒い半日でしたが、子どもたちは最後まで頑張ってくれました。

運動会は、本校の指導計画に位置付けられた学校行事です。子どもたちがこれまで体育学習で学んだ成果を、遠方からくるおじいちゃんやおばあちゃん、保護者、地域の皆さんに思う存分楽しんでもらいたいです。どうか子どもたちの活躍を今から期待しててください。